

シリーズ記念碑探訪 22

団体営農村基盤総合整備事業
小種地区竣工

記念碑

仙北郡協和町小種土地改良区

由 来

本事業地域は仙北郡協和町の西南に位置する稲作、畑作を中心とした純農村地帯で農業以外の収入が望めない立地条件にありながら、ほ場整備率のみが97%で、農道舗装率が0%とその水準は低かった。

そのため、集落道、集落排水などの整備が遅れ、農村における生産性の向上、並びに健全な生活環境を維持することが出来なかった。

これらを解消するため、国、県、町の尽力により昭和54年度から大字小種を集落圏として、農村基盤総合整備事業を導入した。この事業により、ほ場整備並びに農道、集落道、集落排水、農業用排水路の整備、農村公園の設置等に本格的に取り組んできた。

その結果、地元住民の念願であった機械化による労力の節減、農地の高度利用等が総合的に改善され、近代農業に対応できるようになった。



▲竣工記念碑

本事業と前後して県営畑地帯総合土地改良事業、県営排水対策特別事業等が実施されたことにより、生活様式、意識の多様化、営農体系も大きく変わったのである。

総事業費2億2800万円を投じ、12ヶ年の歳月を経て平成2年に完成したことにより、土地利用の安定と農家の生産性向上が図られ、農家経済の基盤が確立されたのである。

平成2年11月16日建立

仙北郡協和町小種土地改良区

参考文献／碑文は語る

